

島根県立 古代出雲歴史博物館 NEWS

2014.FEB vol. 30

新春号



日吉山王祭礼図
展示期間 4月16日～5月11日

— 特別展 —

滋賀県立琵琶湖文化館が守り伝える美

近江 巡礼 祈りの至宝展

from The Museum of Shiga Prefecture, Biwako-Bunkakan
An Omi Pilgrimage
Devotional Treasures

平成26年3月28日(金)～5月11日(日)

CONTENTS

2・3 (特集) 特別展「近江巡礼」

4 展覧会通信

5 学芸員通信

6 れきはく通信／まいぶんセンター通信

7 古代セン通信

8 れきはくごよみ／お知らせ

重要文化財
如意輪観音像
法蔵寺 展示期間 3月28日～4月14日

重要文化財
帝釈天立像
正法寺 展示期間 全期

重要文化財
地藏菩薩立像
興隆寺 展示期間 全期



特別展

滋賀県立琵琶湖文化館が守り伝える美
近江巡礼 祈りの至宝展

開催期間 平成26年3月28日(金)～5月11日(日) 会期中の休館日 4月15日(火)

開催場所 古代出雲歴史博物館 特別展示室

開館時間 9:00～18:00

主 催 島根県立古代出雲歴史博物館、滋賀県、滋賀県立琵琶湖文化館、毎日新聞社

協 賛 野崎印刷紙業株式会社

古来から琵琶湖を擁して文化を育んできた近江。湖西にそびえる天台仏教の霊峰・比叡山からは多くの高僧を輩出し、我が国における仏教文化の中心地として、日本の仏教史に大きな影響を及ぼしました。また「近江八景」の名の通り、古くから景勝地として知られるこの地に文人・画人が相次いで訪れ、優れた作品を残しました。

出雲には鰐淵寺や清水寺など天台宗ゆかりの古刹があり、戦国大名の尼子氏や松江藩主京極氏のルーツが近江であるなど、出雲と近江は思いのほか歴史と文化にゆかりがあります。

その近江で、滋賀県最初の公立博物館として設立され、文化財の調査で数々の成果を挙げてきた滋賀県立琵琶湖文化館は、質の高い収蔵品・寄託品を守り伝える全国有数の博物館として知られています。

このたび当館では、琵琶湖文化館の全面的な協力を得て、同館のコレクションの中から、国宝・重要文化財を含めた選りすぐりの優品を展示します。幾多の戦乱や災害を乗り越えて伝わる、神仏への祈りの美、近江の国の至宝の数々を、心ゆくまでお楽しみ下さい。

第1部 近江の仏教美術 神道美術

琵琶湖文化館の寄託品を中心に優品を紹介します。滋賀県には人々が祈りを捧げる場となる社寺が4600余り存在しており、特に比叡山はわが国を代表する仏教・神道の拠点として一大文化圏を築いています。

このため滋賀県内には仏教・神道美術が時代や宗派を問わず数多く伝来しており、これらは重層的に、かつ地域の暮らしに寄り添いながら存在しています。まさに、人々の祈りとともに現代に守り伝えられてきたものだといえます。

第2部 近世絵画

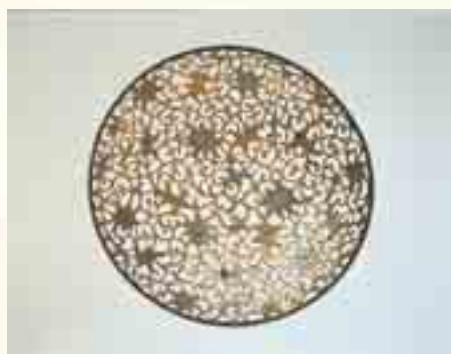
琵琶湖文化館の活動のもうひとつの柱となるコレクションです。滋賀県は古来、美しい景勝地として知られており、たびたび歴史の表舞台に登場することから、多くの画家たちがこの地を訪れて作品を描き残してきました。今回は館蔵品を中心とし、滋賀県を舞台とする作品、滋賀県ゆかりの作家の作品などを紹介します。

展示作品件数：国宝2件、重要文化財28件、滋賀県指定文化財14件、市町村指定文化財2件を含む66件（105点）

※文化財保護のために会期中一部展示替えがございます。詳しくは当館ホームページをご覧ください。



国宝 六道絵 十五幅のうち
人道生老病死四苦相図
(4/28～5/11展示)



国宝 透彫華籠
神照寺(全期間展示)



重要文化財
木造帝釈天立像
正法寺(全期間展示)

重要文化財 東南寺（近江八幡市）の木造地藏菩薩立像

古代出雲歴史博物館 学芸企画課長の 野 克 之

今回の特別展では数多くの仏像が展示されます。ここではその中から特に東南寺が所蔵する木造地藏菩薩立像を紹介して、見どころをお話ししましょう。

地藏菩薩は一般的にお地藏さんと親しみを持って呼ばれる仏像です。他の菩薩は体にアクセサリをつけていますが、地藏菩薩はつけていません。頭もお坊さんのように剃髪しています。左手に如意宝珠という珠を持ち、右手は与願印と呼ばれる願いを叶える印を示しています。

下半身に弧を描いて流れているのは、衣文と呼ばれる衣の襞です。まるでロープを切って張り付けたような表現になっています。左右に3本ずつ表現されていますが、よく見ると左右の幅に違いがあることに気づきます。向かって右の方が左よりも幅が広がっています。次に両足に注目してください。左足の方が右足よりもちょっと前に出ています。写真ではよく分からないかもしれませんが、左右の腰も捻っています。つまりこの地藏菩薩は一歩前に歩き出す瞬間を表現しています。

地藏菩薩は我々を救ってくれる仏様です。例え我々が地藏菩薩の方へ行けなくても、地藏菩薩の方から近寄って救ってくれる、そういった考えを立体的に表現しています。ぜひ貴方の目で確かめてください。



重要文化財
木造地藏菩薩立像
東南寺
(全期間展示)

特別展関連展示

- 写真パネル展「水と神と仏の近江」 平成25年度 文化庁 地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ
開催期間：平成26年3月19日（水）～5月11日（日） 会期中の休館日 4月15日（火）
開催場所：古代出雲歴史博物館 エントランスホール 観覧無料
主催：島根県立古代出雲歴史博物館、滋賀県、滋賀県立琵琶湖文化館、毎日新聞社
協賛：野崎印刷紙業株式会社

特別展関連講座

- 特別展関連講座①「湖の国の文化財」
主催：島根県立古代出雲歴史博物館、滋賀県教育委員会 平成26年4月19日（土）13:00～16:00
「近江水の宝－琵琶湖と水にまつわる文化遺産－」
講師：木戸雅寿氏（滋賀県教育委員会文化財保護課 記念物担当）
「中世社寺建築の宝庫 近江－天台仏教と惣村の文化」
講師：池野 保氏（滋賀県教育委員会文化財保護課 建造物担当）
「近江の祭りにみる祈りの心」
講師：矢田直樹氏（滋賀県教育委員会文化財保護課 美術工芸・民俗担当）
- 特別展関連講座②「琵琶湖文化館学芸員講座」 平成26年4月27日（日）13:30～15:00
「近江の神仏一祈りの至宝」
講師：井上ひろ美氏（滋賀県立琵琶湖文化館 主任）
- 特別展関連講座③「そうだったのか仏像！ガッテンできる仏像講座」
「初級・中級編」平成26年4月5日（土）13:30～15:00
「上級編」平成26年4月12日（土）13:30～15:00
講師：的野克之（古代出雲歴史博物館 学芸企画課長）
○場所：古代出雲歴史博物館 講義室 ○定員：各100名 ○無料
○申込方法：電話・FAX・ホームページのイベント参加フォームのいずれかでお申し込みください。

特別展ギャラリー・トーク

- 担当学芸員による展示解説
○日時：平成26年3月29日（土）、4月20日（日） 11:00～14:00（1日2回）
○受付：特別展入口 ○事前申込みは不要です。特別展観覧料もしくはパスポートが必要です。

特別展関連イベント

- いろんな仏画を描いてみよう！
○日時：平成26年4月13日（日）、4月29日（火・祝） 10:00～16:00
○場所：体験工房 参加費：200円～ ○事前申込みは不要です。詳しくはHPをご覧ください。

平成26年度 企画展示について

古代出雲歴史博物館 学芸部長 足立 克己

平成25年度は出雲大社の正遷座祭を機に、出雲大社への参拝者で博物館周辺は大変な賑わいを見せました。当館にも多くの方々に来館いただき、年間入館者数が平成24年度の48万人を越える情勢です。当館では平成26年度もこの勢いを継続すべく、質の高い展覧会や緻密な調査研究に基づく島根の歴史文化に関する展覧会を開催していきたいと考えています。

以下に平成26年度の展覧会を簡単に紹介します。

まず、3月28日からは特別展「近江巡礼 祈りの至宝展」が始まります。この展覧会は施設の老朽化により閉館中の滋賀県立琵琶湖文化館が守り伝えてきた、近江の仏教美術や近世絵画を同館の全面的な協力により展示するものです（詳細は特集を参照）。琵琶湖文化館には休館中も、国内外の美術館、博物館から公開の要望が多く寄せられ、これに応じて同館は、東京都や福岡県、韓国ソウル市などで公開してきました。この度、当館でも借用することになり、中国地方ではじめて同館の資料をまとめて展覧します。我が国の仏教文化の粋、近世絵画の優品をぜひご観覧ください。

6月には、板締染めの展覧会を開催します。特集展「板締の世界 - 藍板締・紅板締・中国藍夾縵^{きょうけん} -」と銘打ったこの展覧会では、幻の染色技術となった板締染めによる木綿布や絹の衣着、また日本初公開となる中国清朝末から1950年代に行われた藍夾縵の寝具カバーなどを版木共々展示します。日本と中国で描かれた多様な文様の世界を楽しみながら、近世末ごろの文様に込められた庶民の共通の願いを探っていきます。

7月から年度末にかけては、途中冬季の特集展を挟んで、3つの企画展を開催します。この企画展というのは、島根県の調査研究機関である古代文化センターで、テーマを定めて2年ないし3年の期間をかけて調査研究した成果を、展覧会という形で情報発信するものです。夏季の「倭の五王と出雲の豪族」は、近年ヤマト政権の中核とのかかわりが注目されるようになった古墳時代中期（5世紀）における出雲の豪族の特質と出雲東部の地域社会の形成過程を紹介していきます。また、秋季の「修験の聖地 浮浪山鰐淵寺」では、山陰地方屈指の古刹である鰐淵寺の歴史を同寺に伝わる豊富な所蔵品をとおして紹介します。古代に山岳仏教の修行の場として始まった鰐淵寺が、中世、近世にどのように発展していったのかを探ります。年度末になりますが、春季の「入り海の記憶 ～渦・港・内海～」では、かつて日本海側に多く存在していた渦湖の果たした役割とそこに暮らしていた人々の生活の歴史を紐解きながら、渦湖をめぐる人と自然との多様な交渉の歴史を考えていきます。

最後に紹介するのは、冬季の特集展「尾道松江線発掘物語」です。この展覧会は文字どおり、平成26年度末に全線供用開始となる中国横断自動車道尾道松江線の全線開通を記念して、同予定地内で工事前に行われた発掘調査の成果を紹介するものです。広島県立歴史民俗資料館と公益財団法人広島県教育事業団埋蔵文化財調査室との連携事業として開催するもので、当館に続き、広島県立歴史民俗資料館（三次市）、尾道市歴史博物館（尾道市）へと巡回していきます。平成26年度も貴重な文化財や美術品が盛り沢山の展覧会が目白押しです。どうぞご期待ください。

古代出雲歴史博物館 企画展スケジュール 2014～2015

■ 特別展

滋賀県立琵琶湖文化館が守り伝える美

近江巡礼 祈りの至宝展

2014年3月28日(金)～5月11日(日)

※会期中の休館日：4月15日



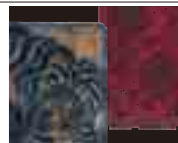
■ 特集展

板締の世界

藍板締・紅板締・中国夾縵

2014年6月6日(金)～7月6日(日)

※会期中の休館日：6月17日



■ 企画展

倭の五王と 出雲の豪族

2014年7月25日(金)～9月15日(月)

※会期中の休館日：8月19日



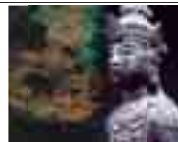
■ 企画展

修験の聖地

浮浪山鰐淵寺

2014年10月10日(金)～11月24日(月)

※会期中の休館日：10月21日・11月18日



■ 特集展

尾道松江線 発掘物語

2014年12月26日(金)～2015年2月22日(日)

※会期中の休館日：1月20日・2月17日



■ 企画展

入り海の記憶

渦・港・内海

2015年3月27日(金)～5月17日(日)

※会期中の休館日：4月21日



古代出雲歴史博物館の所蔵資料や新規収集資料を紹介します。

長州戦争と出雲の人々

古代出雲歴史博物館 専門学芸員 岡 宏 三

4年前、大阪府箕面市在住の飯島様から、同家所蔵のぼう大な数にのぼる古文書が一括寄贈されました。同家は楯縫郡（旧平田市地域）猪目村の庄屋を勤めた旧家で、幕末には楯縫郡の組頭（大庄屋に当たる下郡の補佐役）にも任命されています。

このうち、幕末の当主・飯島与九郎が書き留めた長州戦争関係の資料は、戦争をめぐる出雲西部の人々や、松江藩、鳥取藩兵の動静と混乱ぶりを細かく記録しています。元治元年（1864）年の第一次長州戦争では、松江藩は領内に農民6,914人を郷夫（歩兵）として徴兵することを発令し、与九郎も楯縫郡の郷夫678人のうち64人を率いて松江に集屯しました。明治に編纂された『鳶巣村歴史資料』（出雲市東林木町の園山様寄贈）によれば、郷夫たちが出発した時の光景は、「杖ツケル老親、子ヲ抱ケル妻ナドニ見送ラレテ集り来り、悲声、果テハ啼号ノ裡ニ松江ヲ指シテ出ツ」だった、といひます。

慶應2年（1866）7月の第二次長州戦争では、当時最新のミニエー銃を駆使する長州の奇兵隊の「炮発雨霰之如く、誠に誠におそろしき」攻勢に、幕府軍は総崩れになりました。18日夜に蒸気船（第二八雲丸）で大社湾に帰着した松江藩兵が、翌日出雲大社へぞろぞろと参拝する様子は「雨天のところ戦士方乱れ髪にて（略）身の毛もよだつ有様」。石見から撤退してきた鳥取藩兵約5,000人が今市に駐屯し、今市や大社の門前町・杵築の家々では、諸道具、荷物を山方の知り合いに預けたり貴重品を屋敷内に埋めたり大混乱に陥りました。

この飯島与九郎の資料については、3月22日（土）、出雲弥生の森博物館の文化財保護審議会委員講座で詳しくご紹介します。お申込みの詳細は同館へお問い合わせ下さい。



長州御征伐被仰出取扱一途

石見石田家文書

古代出雲歴史博物館 専門学芸員 目 次 謙 一

当館では、島根の特色ある歴史と文化の調査研究成果の情報発信・活用をはかるため、さまざまな分野の資料を収集し、その充実を図っています。

今年度新たに収集した資料の一つとして、石田家文書をご紹介します。本文書はその内容構成から、江戸時代に幕府領だった邇摩郡波積本郷村（現在の江津市波積町本郷）の石田家に伝来したもの的一部と推測されます。波積本郷村の庄屋だった石田家は、二川たたらを経営して鉄生産も行っており、同村の曹洞宗福城寺を菩提寺としていました。本文書の特徴として、この福城寺に関連する17世紀後半以降の文書が50点以上含まれることが挙げられます。その中には、石見銀山遺跡地内の銀山町（現在の大田市大森町のうち）にあった、曹洞宗龍昌寺に関する史料も含まれています。同寺はかつて「銀山大盛祈願道場」とされ、幕府代官所の手厚い保護を受けていたと考えられています。また、龍昌寺は代官所役人を檀家に持つ檀那寺（菩提寺）でもありました。この石田家文書は、龍昌寺や銀山町の関連史料を含む貴重なものと言えるでしょう。

また、当館は石田家文書の一部を以前に別途収集し、大田市教育委員会でも同様に一部所蔵しています。今回収集したものと合わせて、郷土ゆかりの資料である石田家文書の相当数が県内で保存できることとなりました。今後当館は島根県に関する資料の保存とその活用努めてゆきます。



龍昌寺から福城寺への文書

荒神谷銅剣と加茂岩倉銅鐸コーナの照明器具がLEDになりました

古代出雲歴史博物館 主任学芸員 増田 浩太

LEDを使用したライト、最近はごく普通に見かけるようになりました。以前は「ちょっとお高いな」というイメージでしたが、一般的な電球に比べ長持ちで省電力ということもあり、あっという間に普及しました。博物館・美術館においても、LED照明は急速に普及してきています。展示室で使用されるライトは、一般的な電球より強力なハロゲン球を使いますが、寿命が短いのが困りもの。3、4ヶ月で切れてしまうので、そのたびに交換しなければなりません。一方LEDライトの寿命は数万時間といわれており、数年間は交換する必要がありません。また文化財に有害な紫外線や赤外線をカットしたライトが設計しやすいこと、ハロゲン球に比べ省電力なことから、美術館・博物館ではメリットが大きいのです。

当博物館でも、一部の照明に試験的に使用してきましたが、いよいよ本格的にLED化を始めました。まず手始めに、お客様の注目度が高く、同時にもっとも取り扱いに神経を使う国宝・荒神谷銅剣と加茂岩倉銅鐸のケースを、LED照明に変更することにしました。どちらも非常にデリケートな文化財なので、ライト交換などの作業を頻繁に行うのは間違いのもと。事故の危険性は高まりますし、作業を行う学芸員にとっても精神的につらいものがあります。長寿命のLEDライトは、文化財にとっても学芸員にとってもありがたい存在です。

12月の休館日、丸一日をかけた工事を経て、両展示ケースはLED照明に換わりました。明るさや色合い(演色性)は従来のハロゲンライトに合わせてあり、ぱっと見には違いがわからないと思います。

さて、良いことづくめに見えるLED照明ですが、最新の技術故に歴史が浅いのが気になる場所。所定の寿命が本当にあるのか、経年劣化がどの程度なのかなど、永年使ってみなければ分からない点もあります。当館では定期的にデータを採りながら、こうした問題についても検証していく予定です。



出雲東部最大級の前方後円墳と判明

～松江市 東淵寺古墳の発掘調査～

埋蔵文化財調査センター 企画員 原田 敏 照

松江市大庭町に所在する東淵寺古墳は、全長約62mの出雲では5番目に大きい古墳時代後期の大型前方後円墳といわれてきました。ただし、後世に開発を受けたことから、現状では古墳の形や大きさは全く分からない状況でした。

そこで、平成23年度から古代文化センターと埋蔵文化財調査センターでは古墳の詳細を明らかにすべく発掘調査を行っていました。今年度は3年目の調査になりましたが、未だ解明されない古墳の形を明らかにすることを第一の目標に発掘を行いました。



くびれ部周辺の周溝内埴輪・子持壺出土状況

その結果、前方後円墳のくびれ部から前方部にあたる古墳の裾を確認し、ついに前方後円墳であることが確定になりました。この3年間の発掘調査によって、6世紀末頃に造られた大型前方後円墳で、古墳の西側には幅5.5m、深さ1.3m程の大きな周溝(濠)が廻っていることが明らかになるとともに、古墳の墳丘には円筒埴輪等の埴輪とともに子持壺が多く立て並べられていたことが確認されました。

古墳時代後期に前方後方墳や方墳が集中して造られる地域において、前方後円墳が造られていることが明らかになったことは、6世紀後半の出雲における豪族の動向を探る上で重要な発見となりました。



東淵寺古墳 全体図

「前方後方墳と東西出雲の成立に関する研究」と 企画展「倭の五王と出雲の豪族」

古代文化センター 主任学芸員 仁 木 聡

島根県古代文化センターでは、出雲の中期古墳を対象とした研究を平成23年度より3カ年計画で進めてきました。この共同研究では、古墳時代中期における出雲の特質や、地域社会の形成過程を明らかにするため、当地の考古資料を丹念に追求する研究に軸足を置き、また一方では全国的な視点から考察を進めてきました。そして現在、研究成果の一部を企画展「倭の五王と出雲の豪族」で紹介できるよう、その準備を進めています。

さて、企画展のタイトルにもありますように、テーマ研究でも「倭の五王と出雲の豪族」の関係、つまりヤマト（倭）王権と出雲の政治的な関係を解明すべく、様々な考古資料や文献資料の検討を進めてきました。

5世紀を中心とする古墳時代中期は、ヤマト王権をはじめ、列島各地の豪族が東アジア諸国との活発な国際交流を繰り返していた時代でもありました。中国南朝の歴史書である『宋書』倭国伝には、讃・珍・済・興・武という倭の五王と称される歴代の大王が、群臣共々、宋の冊封体制における官職の承認を求めたことが記されています。では、「出雲の豪族は、大王に列するような群臣、あるいは外交使節団の一員に含まれていたのでしょうか？」一見、荒唐無稽な問いに聞こえるかもしれませんが、出雲の古墳やその出土品の検討から、出雲の豪族が、大王や中央の有力豪族と非常に密接な関係を有していた可能性が浮かび上がってきました。

今回の企画展では、百舌鳥・古市古墳群における大王墓から出土した貴重な考古資料をはじめ、初公開品が含まれる出雲の考古資料を紹介します。そこから、ヤマト王権と出雲のつながりを、そして、『日本書紀』に記された仁徳天皇の皇太子時代に仕えた出雲臣の祖とされる「淤宇宿禰」や、埴輪起源説話で有名な「野見宿禰」なる人物の伝承をキーワードに、大王に奉仕した地方豪族の姿と、律令時代に遡る「出雲」という地域社会成立の謎を考えてみたいと思います。さらに、古墳時代中期の出雲では、50mを超える全国屈指の大型方墳をはじめ、前方後方墳が築造される等の地域的な個性があります。この個性の歴史的な背景と、その意義についても、全国的な視点から検討を加えたいと思います。出雲古代史ファン必見のテーマ研究・企画展です！



誉田丸山古墳出土2号鞍金具前輪
(国宝・誉田八幡宮蔵)



月坂放し山5号墳出土資料
(安来市教育委員会蔵)



【丹花庵古墳(手前)】と【古曾志大谷1号墳(遠景・復元移築後)】
丹花庵古墳は、古墳時代中期・全国第10位の規模を誇る一辺50mの大型方墳
古曾志大谷1号墳は、丹花庵古墳築造後の中期末葉に築造された前方後方墳

春のイベントのご紹介

れきはく開館記念日（3月10日）

開館記念イベントを3月9日（日）・10日（月）開催します。

- ◆展示室無料開放！ 3月9日（日）・10日（月） 9:00～18:00
展示室を無料で観覧いただけます。
- ◆パスポート会員Wポイント！ 3月9日（日）・10日（月） 9:00～18:00
来館ポイントを2ポイントプレゼント。
- ◆れきはくトライアングルスペシャルコンサート
3月9日（日） 11:00／14:00（2回）
講義室 無料
トライアングルによる紙芝居&コンサート、雲太くん・出雲ちゃんも登場します。
- ◆博物館をもっと楽しもう！
学芸員が案内するバックヤードツアー
3月9日（日） 10:00／13:00（2回）



お知らせ

アテナント通信

皆さんこんにちは、アテナントの園山です。

皆さんはご存じでしたか？情報交流室では特別展や企画展にちなんで、パワースポットやグルメ、そして知られざる面白ネタなど、好奇心と食欲が旺盛なアテナントがその場所ならではの魅力を探して紹介しています。ただいま、特別展「近江巡礼」展に向けてレアな情報を収集中です。

私たちと一緒に魅力が花開く近江（滋賀県）をすこしのぞいてみませんか？特別展では見つけられない発見があるかもしれません。

ご期待ください！



ミュージアムカフェ・ショップ通信

- Maru café です。

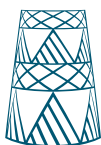
カフェでは特別展や企画展にあわせて、毎回、期間限定の特別メニューを用意しています。

今回の特別展「近江巡礼」にちなんだオリジナルデザインのれきはくカプチーノとケーキを考案中です。お楽しみに！

- ミュージアムショップです。

ミュージアムショップでは特別展にあわせて関連グッズを販売しています。今回の特別展は素晴らしい「仏像」が展示されますので、仏像関連のグッズを販売する予定です。

発行／平成26年2月



島根県立古代出雲歴史博物館
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350
URL : <http://www.izm.ed.jp> E-mail : contact@izm.ed.jp
開館時間 9:00～17:00(3月～10月は、9:00～18:00)



マスコットキャラクター
雲太くん



マスコットキャラクター
出雲ちゃん